風のささやき

山仲間アルプ
NPO 法人山仲間アルプ　機関誌 NO.4
平成 15 年 3 月 5 日発行

山　行　報　告

★天狗岳(１１月２３日～２４日)

参加者　会員(障害者 2 名、健常者 4 名)

★１１月２３日（日）

冬型が強まり寒くなると言う天気予報に、寒さ対策をしっかりとして山に向かう。スーパーあずさの車窓からは、南アルプスや八ヶ岳の山々がはっきりと見えている。

茅野駅で降り、私は勘違いしてバス停に並んだが、次のバスは１０時２０分ですと聞いて、タクシーで行く予定だったことに気づく。
渋ノ湯で下りると、やはり相当寒い。じっとしていられないので、早々に歩き始める。登山道の脇には、霜柱が長く伸びていて、冷え込みの厳しさを物語っている。ひと登りで尾根上に到着。ここからは、苔むした岩ゴロの道を登っていく。少々、ペースが上がりすぎたため、Ｔさんが大汗をかいていた。ペースを落とし、ゆっくり登って、黒百合平で昼食にする。中山から下ってきた２人の女性は、山頂は猛烈な寒さだ

ったと言い、防寒着をしっかり着込んでいた。聞くと、長岡の出身らしい。私の田舎と近いので、親近感を覚える。

私は、上下雨具を着込んで、寒さ対策をして天狗岳を目指す。急な岩場を登り、天狗の奥庭付近からは、北アルプスの槍穂高連峰や乗鞍岳、そして御岳などがよく見えた。さすがに北アルプスは真っ白である。

しかし、この道は岩が大きくてゴロゴロしているので、歩きにくい。弱視のＫさんは、それでも苦労しながら登っている。登山道の脇の植物に氷の結晶が成長して美しい紋様を描いている。

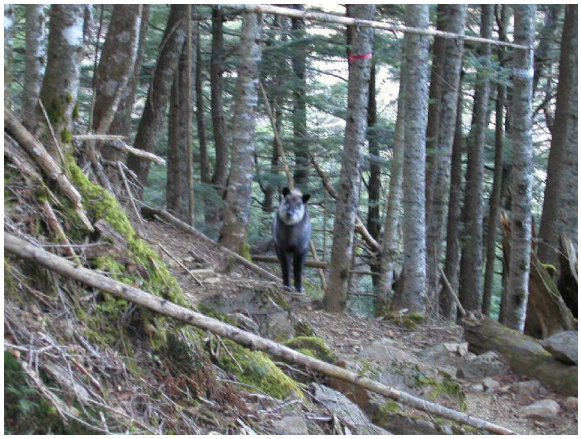
Ｙさんのサポートでｋさんも困難なゴーロ地帯を抜け、天狗岳への最後の登りにかかる。１５時１０分少し遅い時間だが、天狗岳に登頂。

今まで見えていた北アルプスの他に、中央アルプスや南アルプスの仙丈岳、甲斐駒ヶ岳、北岳などが間近に見える。その手前には、阿弥陀岳、赤岳、硫黄岳の南八ヶ岳の山々がよく見えている。ただ、奥秩父方面は、薄い雲の中に姿を隠していた。

山頂で記念撮影をし、根石岳とのコルを目指す。時間が遅いため、このコルから、直接本沢温泉に下ることにする。急なジグザグの道を下

り、樹林帯にはいる。次第にあたりは夕闇に包まれてきた。しかし、何とかヘッドランプの世話になる前に、本沢温泉に到着。温泉の方が、到着が遅いので、心配していてくださった。おいしい夕食と、本邦第２の高所温泉を楽しみ、消灯と同時に眠りについた。

★１１月２４日（月）



朝食は７時と遅いため、ゆっくり出発する。林道を少し歩き、途中から斜面をトラバースするみどり池への道にはいる。朝の光がしらびその木々の隙間から漏れて美しい。しばらくいくと、登山道にカモシカがこちらを見つめて立っていた。小首を傾げて、安全かどうか確かめているのだろうか？　写真を撮りながら近づいていくと、振り向いて登山道を歩き始めた。私たちを先導するように歩いていたが、途中から右の斜面に下りていった。

　そこから、しばらく歩き、ようやく中山峠との分岐に到着。トロッコの軌道あとを歩いていくと、すぐにみどり池に到着。しらびそ小屋の脇には、リスやホシガラス、ゴジュウカラ、コガラが来ていた。Ｋさんと小屋の脇に並んで、写真を撮る。他のみなさんは、小屋に入ってコーヒータイムだ。Ｙさんの奥さんが、コーヒーをプレゼントしてくださった。

　しらびそ小屋でかなりゆっくりしてから、天狗岳に別れを告げて下りはじめる。ここの樹林は、かなり同じ種類が固まっている。しらびそだけの林があったり、カラマツだけの林があったりと。やはり、カラマツ林は美しい。林道に出て、近道の登山道を行くと、稲子湯に到着。ここでも温泉に入って汗を流し、ビールで乾杯。バスに揺られて、松原湖を目指す。

★槇寄山(忘年山行)(１２月２１日)

　参加者　会員(障害者 10 名、健常者 19 名)
　　会員外(障害者 3 名、健常者 6 名)

　今回は、山仲間アルプ始まって以来の大人数のため、事前に西東京バスに電話して、人数を伝えておいたため、臨時バスを行き帰りとも出していただいた。西東京バスさんに感謝です。

　仲ノ平バス停に着くと、世田谷から車で忘年会用の荷物を運んでくださったＹさんたちが少し前に到着していた。車の荷物をバンガローまで運び、４班に分かれて出発する。

　しばらく急な登りの車道を歩き、民家の脇から登山道に入っていく。今回は、Ａさん親子がはじめて参加してくださった。お母さんと大学１年生になったH君、そして中学２年生のK君だ。私は、お母さんとH君とは久しぶりの再開だが、K君は初めてだ。K君は、今年、赤城山に登ったらしい。その時は、岩に掴まるような急な登りだったらしいが、今回は、緩い登りな

ので、安心して歩き始めた。

登山道には、霜柱が長く伸びている。昨日は、雪も降ったようで、ところどころ白くなっていた。また、落ち葉の絨毯がカサコソと鳴って気持ちよい。尾根道からトラバースに変わると、西原峠は近い。峠から、素晴らしい富士山が見えたが、やはり圧巻は山頂からの富士山だ。右下に三ッ峠山を従えて、真っ白な富士山が聳えていた。

山頂で昼食を取り、笹ヶタワ峰を経由して、仲ノ平を目指す。この道は、下の方に行くと、落ち葉が１０ｃｍ以上も積もり、とても気持ちの良い道だ。K君も頑張って付いてきてくれる。分岐点を過ぎ、さらに下ると、先に着いた人たちが忘年会の準備をしていてくれた。

忘年会は、煮物を作り、缶ビールや缶酎ハイで乾杯だ。談笑の中で、ＫＲさんがギターを弾

いてくれて、Nさんが作ってくれた歌集を見ながら、大勢で歌を歌ったり、みんなで楽しみ、あっという間に時間が過ぎてしまった。

暗くなった車道を歩き、予定のバスに乗って、武蔵五日市を目指す。

今年１年、大変お世話になりました。みなさんのおかげで、本当に楽しい１年でした。

★那須岳(１月１１日)

参加者　会員(障害者 4 名、健常者 6 名)
　　会員外(障害者 1 名、健常者 2 名)

東京は素晴らしい天気だったが、宇都宮を過ぎる頃から山の方に雲が見え始めてきた。黒磯に着くと、山から押し寄せた雲が町の近くまで来ていた。

予約していたタクシーに乗り込み、大丸温泉向かう。風花が舞い始め、大丸温泉に着く頃には、道路を地吹雪が通り過ぎて行くようになっていた。

大丸温泉のトイレの前で準備をしていると、上から下りてきたという人がいた。話を聞くと、強風のため峰の茶屋まで行けずに引き返してきたという。我々も無理をせず、行けるところまで行くことにして、アイゼンを付け出発する。

車道を横切っていく近道を登る。1時間近く歩いたところで、今日の強風に備えて、耐風姿勢をみなさんに練習してもらう。さらにしばらく行くと、ロープウェイの那須山麓駅が見えてきた。職員の方と思われる人たちが作業をしていた。時折強い風が吹き抜けていく。さらに行くと、峠の茶屋に到着。途中、何パーティーか上から下りてきたが、みんな峰の茶屋の手前で引き返してきたようだ。

ここから、登山道になった道を登っていく。少し登っていくと、単独の方が下りてきた。足に怪我をしているようで、顔を見たら、顔から血も流れていた。話を聞くと、風に飛ばされて怪我をしたらしい。我々も、そろそろ引き返す頃だと思い、そのタイミングを探しながらもう少

し登ってみた。

まだ、登れそうではあるが、岩が出てきて森林限界を過ぎたと思われる付近で、引き返すことにする。

下ってきて、峠の茶屋の前で昼食にしていたら、先ほどの怪我をした単独の方がよろよろと道路を歩いていくのが見えた。強い風が吹いてきては、よろよろとよろけているので心配になり、みんなで一緒に歩こうと、彼のところまで下りていく。顔の怪我はたいしたことはなかったようだが、スネに大きな怪我をしているそうだ。

Kさんに彼のザックを持ってもらい、Sさんと私で肩を貸し、彼を挟むようにして、一緒に道路を下っていく。

下りは早く、ほどなく大丸温泉に到着。怪我をした彼は車で来たそうだが、Sさんに足の怪我を見てもらうと、骨が見えて、骨折していることが分かった。携帯電話で救急車を呼び、彼は麓の病院に運ばれた。私たちも山を甘く見ることなく、慎重に行動したいものです。

彼を見送ったあと、大丸温泉に入ってビールで乾杯をし、予約していたタクシーに乗って黒磯に向かった。

★中山峠(２月７日～８日)

参加者　会員(障害者 1 名、健常者 3 名)
　　会員外(健常者 2 名)

★２月７日

東京は素晴らしい天気だったが八ヶ岳方面は笠雲がかかっていた。やはり冬型気圧配置の影響を受けているようだ。

渋ノ湯に着くと非常に寒い。早々に支度をして歩き始める。橋を渡った先の上り坂が凍っているというNさんやKさんの話を聞き、渋ノ湯からアイゼンを付けて歩き始める。ただ、最近雪が降ったのか、凍っている部分はほとんど出ていなかった。

全盲のAさんは、雪道の歩きやすさを実感したようだ。しかし、高度が上がるにつれ、調子が落ちてくる。やはり高度障害が出始めたようだ。それでも、頑張って登っていく。雪のない時期は歩きやすい道も、雪が凸凹を埋めて、とても歩きやすい道になっている。

左側の斜面に岩が見え始めると黒百合平は近い。黒百合ヒュッテの前の温度計を見ると氷点下１３℃だった。昼間の気温としては、かなり冷えていたのではないだろうか？

時間的にちょっと苦しいので、早々に小屋をあとにする。中山峠もすぐに過ぎ、今回のコースで少しだけ心配だった峠からの下りも、難なく下る。調子の悪いAさんも少しすべりながらぐんぐん下りる。

余り遅い時間に小屋に着くと、夕食をもらえない可能性があるので、SさんとKさんに平坦になったところで、先に小屋に行ってもらう。

あとに残った私たちは、ゆっくりと小屋に向かう。

本沢温泉への分岐を過ぎると、すぐにしらびそ小屋だ。小屋では新館に案内される。体調のすぐれなかったAさんは、小屋に着いたとたん元気を取り戻した。うーん、本当に高度障害なんだろうか？　ビールで乾杯し、ワイン付きのおいしい夕食を食べ、こたつでみなさんの話を聞いていたら眠くなってきた。

★２月８日

今回はしらびそ小屋で９時までゆっくりする予定だったが、稲子湯の温泉に入り

たいという意見が多かったので、少し早めに出発することにする。しかし、７時頃から小屋の前に訪れてくれたヒガラやコガラ、ゴジュウカラなどの野鳥たちや、少し遅れて登場したホンドリスのかわいいしぐさを見たり、写真に納めたりしているうちに８時半過ぎの出発になった。

今日は素晴らしい天気だ。空に伸びたダケカンバの枝振りや、枝に着いた雪が朝日を浴びて輝く様子が素晴らしい。切り株の上に乗った雪の固まりは、ほんわかと丸くてかわいい。そして、先頭を行くＮさんとＡさんのお喋りと笑い声は、雪に吸収されることなく、静寂を突き破る。それも楽しく、みんなるんるん気分で下っていると、すぐに林道に出て、稲子湯もあっという間だった。温泉は体の芯まで暖めてくれる。上がったあとのビールは最高。楽しい山行だったことを喜び合って乾杯！！

★大高山(２月２１日)

参加者　会員(障害者 7 名、健常者 11 名)
　　会員外(障害者 1 名、健常者 2 名)

今日は、２月とは思えないぽかぽか陽気だ。電車の中では、暑くてフリースも来ていられない。今回は、初参加の方が６名と、初々しいさが、漂っている。

吾野駅に下り立ち、声出しをする。今回は、初参加の方が６名いる。大学１年生から６０歳代まで幅広い人たちが揃い、楽しい山行になりそうだ。

吾野駅からの歩き出しがなかなか難しい。地図に書かれた道を探し出せず、線路沿いを西吾野側に歩き、踏切を渡って吾野駅の方に戻った。そして、道路脇のかなり低い位置にトンネルを発見。そうか、このトンネルをくぐってくることができたのだ。このトンネルは、国道２９９号線に一度でないと見つからなかったようだ。初参加のＫさんと、道を探しながら来たが、ようやく納得。

車道から登山道に入ると、しばらく急登が続く。下を見下ろすと、吾野駅がすぐ足下に見える。杉林の中を登っていくと、シジュウカラの声が私たちを迎えてくれる。ウグイスも今年は

じめて、歌声を聞かせてくれた。ぽかぽか陽気に春を感じたのだろうか？

ゆっくり登っていくと傾斜が落ち、前坂に到着する。そこから大高山までは、のんびりコースだと思ったが、以外とアップダウンがありきつく、大高山山頂直下では、両側が切れた岩場も出てきた。私が視覚障害者の人たちの通過のサポートに加わり、無事にクリア。そこを過ぎると、山頂はすぐだった。ただ、山頂も狭く、

全員が腰を下ろすスペースもないため、少し先に行ったところで、昼食とする。腰を下ろそうとしたら、Ｔさんのザックが転げて落ちそうになり、ヒヤリとする。何とか木にぶつかって止まってくれた。

大高山を過ぎてからもアップダウンが続く。今回は、技術、体力ともＡランクということで、みなさんに案内していたが、Ｂに近いＡ＋くらいのグレードだった。安心して参加したみなさんに、ご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ありませんでした。

しかし、初参加のＩさん、Ｋさん、Ｕさん、Ｔさん、ＫＡさんもしっかりとサポートをしてくださっていて、とても頼もしい。

何度もアップダウンを繰り返し、ようやく天覚山に到着。みなさん疲れていると思い、山頂はパスして沢コース下降路の入り口の広場で休憩する。沢コースは、急なジグザグで始まる。滑りやすいところもあり、みんな慎重に下る。ようやく傾斜も落ち、林道の脇を下るようになる。チッチッとホオジロが何羽も木々の間を飛び交っていた。

麓の家では、フクジュソウが咲き、鉢植えの梅やサクラソウの仲間が咲いていた。今日のぽかぽか陽気は、これからの春植物の花たちへの思いを膨らませてくれるに十分だった。

★大高山に参加して★

靴についた泥をおとしながら、昨日一日のことを思い出す。最も強く感じていたことはなぜか「地球はまるい」という当たり前のことであった。そんな考えに行き着く経緯は何であろう、いくつか思い当たる。

私は日々、アスファルトとコンクリート床を踏みしめて急いで必死に生活している。最後に山に登ったのは１１年前、１１年の間に土を踏む感触をすっかり忘れてしまっていたようだ。土に触れているうちに、大地はコンクリートではなく土でできていること、そしてその大地は大海と抱き合って巨大な球体＝「まる」であることを思い出し、実感した。また、このたび初めて参加させていただいたが、星の数程の人々の中での皆様との偶然の出会い＝縁という言葉の響きから、円、「まるい」、ということを連想した。また、人が集まると自然に輪ができ、これも「まるい」につながる。笑顔を記号で表せば、これも「まる」だ。

私自身、昨日一日の出来事によって、少しまるくなれたのかもしれない。帰路、ふっくらなにかまーるいものに包まれた気持ちでいっぱいだった。皆様、素晴らしい仲間に入れていただき、本当にありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いします。　　記：Ｙ．Ｋ

大高山にて　　記：R．I

大高山は　冬枯れの杉やぶなの林道
ときには　日ざしが穏やかにもれる
変化に富んだ　奥武蔵の自然よ
大切なこころを　ほんとうの生き様を　教えてくれる
わたしが　多くの時間をかけて
見つめてきたものは　なんであったのか
共に登って　深い命の　かかわりを思う

■中止となった山行

・北八ヶ岳横岳・雨池　雨のため中止としました。
・阿弥陀岳北稜　　誠に申し訳ありませんが、事務局の都合で中止とさせていただきました。

講習会報告

●登山技術講習会(岩登り)(12 月 14 日)

参加者　会員(障害者 2 名、健常者 2 名)

奥武蔵の日和田山で、岩登り講習会を実施しました。ザイルの結び方や確保の仕方を覚え、女岩南面のフェースと、男岩南面クラックルート、男岩西面のフェースを登りました。

●気象講習会(1 月 18 日)

参加者　会員(障害者 6 名、健常者 8 名)

世田谷区池尻地区会館で、13 時から 14 時 30 分まで、網干が講師で以下の内容の気象講習会を行った。

1．観天望気（雲の種類）
2．高気圧と低気圧（構造と低気圧の発生から消滅まで）
3．気団と前線（気団の種類と前線の構造）
4．四季の気象（それぞれの特徴と注意点）

個人山行報告

★雲取山(2 月 14 日)

明日は八ヶ岳・阿弥陀岳北稜ということで浮き浮きと帰宅途中、理事長よりＴＥＬ。ぎっくり腰で明日の山行中止とのこと。残念。しかしどこかに行かねば。2 日間も無駄にしたくない。理事長にＮさんのＴＥＬナンバーを聞き、どこかに行きましょうと誘う。Ｎさんも中止でがっくりしていたということで、話まとまる。AM8:00 鳩ノ巣駅にて待ち合わせ。車で鴨沢小

袖乗越付近の駐車場まで入る。身支度をし、8:40 いざ雲取山へ。

非常に天気良く、小春日和。暖かい。４月上旬なみ。ゆっくり歩き、体を慣らす。しかし、山道は所々、凍っている。”とにかく思い切って来て良かった”と新鮮な空気を吸いつつ、談笑しながら一歩一歩登っていく、

土曜日なのかあまり登っている人がいない。我々が登りはじめるのが遅かったのか？　七ツ石小屋の分岐あたりで休んでいると、若者３人組が７０Ｌ～８０Ｌのザックを担ぎ、通過していく。今夜は泊まりなのか、うらやましい。１泊２日にすれば良かった。

七ッ石山の巻き道、ブナ坂手前で先ほどの若者、ばててぶっ倒れていた。ブナ坂を登り切った景色の良い台地で、山々を眺めながらの昼食(12:20～1:20)とする。暖かいので、遠くは霞んでいる。富士山も霞の中であるが、大菩薩嶺など景色を楽しむ。ここで昼寝(一人で登るときは昼寝する)したいが、懐電下山も経験として勉強になるなあと思い、またまたゆっくりペースで歩くことにする。

稜線上は、風が強く寒くなる。アップダウンを繰り返し、少しきつくなってきたので、小雲

取を巻く。冨田新道側より雲取山へ。PM2:45 山頂着。霞で北アルプスまでは見えなかったが、山座同定５分ほどせり。避難小屋にて休憩する。先客２～３組。シュラフを広げたり、くつろいだり、寝たりしている。

３時過ぎに下山にかかる。下りに心配していた残雪のすべりはあまりなく、快調に下る。今から泊まりがけで雲取山に登っていくパーティーと数組すれ違う。後半、日が暮れ、懐電下山となるが、これも訓練と思い、マイペースで行く。

5:30 ヘッドランプをつける。6:15 小袖乗越着。９時間３０分の山行無事下山。Ｎさん、お疲れさまでした。

記：M. H

各種報告事項

◆臨時総会開催

１月１８日１５時から世田谷区池尻地区会館で臨時総会を開催しました。

１．社員(正会員)総数　２９名
２．出席者数　２０名(うち書面委任者５名)
３．審議事項
　(1)第１号議案　来年度活動計画
　(2)第２号議案　会費改定
４．議決結果
　第１号議案、第２号議案とも、議案のとおり議決、異議はなし。

※　議決内容は、別紙参照願います。

◆助成金が支給されました

千葉県の生活クラブ生協から、障害者支援の団体などに支給される「エッコロ福祉基金」から、助成金８万円をいただきました。これは、１５年度の山行リーダーの交通費に充当させていただきます。

◆読売新聞に掲載

１月１１日発行の読売新聞千葉版にある「がんばれＮＰＯ」という記事に、山仲間アルプを取り上げていただきました。２５件ほどの問い合わせがあり、５名の方に入会していただきました。(４月入会の方も含みます)

◆引きこもりＫＨＪ千葉親の会に出席

１月１７日行われた第２回引きこもりＫＨＪ千葉親の会「なのはな会」の月例会に、M. Aが出席しました。また、２月２８日に行われた第２回月例会にも出席し、入会しました。

山仲間アルプの活動を通じて、引きこもり当事者の方や親御さんの力に少しでもなりたいと思い、みなさんの様子を伺い、勉強すると共に、少しずつコミュニケーションを図って行きたいと思っています。今後とも、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

◆引きこもりの人たちを支援する会を訪問

１２月１９日に千葉市にある引きこもりの方たちを支援する「道草の家」をM. Aが訪問し、２月３日に市川市にある、不登校児や引きこもりの人たちを支援するＮＰＯ法人「セカンドスペース」を、M. AとH. Aさんが訪問し、興味のある方やご協力できることがあれば、ご連絡をいただくことをお願いしてきました。

◆千葉県生涯学習センターの講師として出席

千葉県生涯学習センターで行われた自主講座「あなたもできるＮＰＯ、ボランティア」にM. Aが講師の依頼を受け、２０分程度の時間で、山仲間アルプの説明を行ってきました。

◆ICI石井スポーツ登山本店に山仲間アルプを団体登録

東京の新大久保駅近くにあるＩＣＩ石井スポーツに、山仲間アルプを団体登録していただきました。団体登録をすると、会員のみなさんが登山本店で買い物をしたレシートをまとめて持参すると、レシートの合計額の５%分の商品を購入できます。個人的に買い物をしたり、またバーゲンの時などに「買い物ツアー」を企画したりしますので、その時には、レシートを事務局までお送りしていただけますよう、よろしくお願いします。

◆ホームページ情報

ホームページのアクセス数は、3月５日現在約６６００のアクセスがありました。また、ホームページに「山をもっと楽しモール」というアフィリエイト広告のページを作成しました。この広告経由(リンクをたどり)で相手先のサイトに行き、買い物をしたり、資料請求、会員

登録などをしていただくと、一定額または定律で報酬をいただけます。

ここで得た報酬は、会の収益事業として計上し、特定非営利活動の活動資金として、全額充当します。具体的には、少しでも山行の参加費を抑えることができると思っています。

◆その他報告事項

日本経済新聞の夕刊に連載されている「拝啓こんな日々です」というコーナーに、「支える」というテーマでM．Aが紹介されます。山仲間アルプの活動を通じて、支えたり支えられたりしているという内容になると思いますが、今回は、個人の紹介となってしまいますので、ご了承お願いします。

今後の計画

▲定期総会の予定

５月９日(日)に定期総会を予定しています。詳細は、４月にお送りしますが、ぜひご出席いただけますよう、よろしくお願いいたします。

▲２００４年度活動計画

平成１６年１月１８日(日)に開催した臨時総会で可決されましたので、計画を添付します。２００４年度は、九州の九重山や北海道の利尻山・礼文島なども予定しています。こちらは、事前準備が必要なため、２ヶ月以上前に申込み締切となっています。早めにお申し込みください。

△ふれあいハイキングの実施

山に登ることのできない車椅子の方や、体力的に山を登れない方など、一般の方を対象として、ふれあいハイキングを実施します。第１回目は、**4月25日に千葉県手賀沼の周辺**で行います。また、２回目は、**5月23日に、印旛沼の周辺**で実施します。当日は、植物に詳しい方や野鳥に詳しい方に参加いただき、簡単な自然観察をしながら歩きたいと思っています。山とは違う沼地や芦原の自然に触れることができると思います。会員のみなさまには、運営スタッフまたはボランティアとしてご協力をお願いしたいと思いますので、その節はよろしくお願いいたします。

◆感想やご意見を募集中です！！

山行に参加してみた感想を、ぜひ事務局までお寄せください。また、個人的にこんなところに行ってきたよとか、最近こんなことを思っているなどのご意見を随時募集中です。事務局まで、ぜひお寄せください。

◇個人山行の計画

個人山行を計画されている方は、事務局まで計画書を提出ください。計画書を提出していないと、スポーツ保険の対象にならない可能性が大です。もしもの時のために、必ず提出するよ

うに心がけてください。

【スポーツ保険のご紹介】

山仲間アルプで加入しているスポーツ保険は、掛け金が年間（４月１日から翌年３月３１日まで）1,500 円で、下記の補償があります。

１．障害保険	死亡 2,000 万円、後遺障害 3,000 万円、入院(日額)4,000 円、通院(日額)1,500 円
２．賠償責任保険	身体賠償(１人　１億円、１事故　５億円、免責　1,000 円) 財物賠償(１事故　500 万円、免責　1,000 円)
３．共済見舞金	160 万円
４．注記	雪山や沢登りなど、ザイル、ピッケル、アイゼンを使うような山は、保険金の対象となりません。そのような山に行かれる方は、各自山岳保険に加入願います。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

１１月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。詳しくは、会員名簿をご覧ください。

正会員　　５名
賛助会員　１２名

○退会者のお知らせ

残念ですが、ご都合により、下記の方が退会されました。

３名

編集後記

・理事長のつぶやき

引きこもりＫＨＪ千葉親の会でいろいろ話を伺っていますが、引きこもるみなさんは、みんなまじめで心が繊細な人たちです。親に喜んでもらえるよう、一所懸命に「良い子」になろうと努力を続けてきたが、それが高い理想を掲げることになり、そこに到達できない自分を卑下してしまうようです。無理して「良い子」を演じてきたけど、何かに挫折したりして、引きこもってしまうことが多いそうです。

これらは、決して本人や親御さんだけの責任ではないと思います。今の世の中が、本音を言えず、自分を殺して、周囲の人や上司などに合わせなければ生きていけないように感じる現代社会そのものの中に原因が潜んでいるように思います。

我が子が引きこもっているというようなことも外部の人にはなかなか言えるもので

はありません。どうしても、「そんなのは親の責任だ」とか「子どもを甘やかせたからだ」という偏見を多くの人たちが持ってしまうと思うからです。

山仲間アルプは、差別や偏見とは無縁で、みんな何でも言える、本音で付き合える仲間でありたいと思っています。

・次回発行予定は、６月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022　千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局　　網干　勝
TEL.047-484-8308